

◆◆◆教材の概要◆◆◆

かめ、あひる、白鳥が池の中の島へ行こうと相談しているところに、りすが来て、一緒に連れて行ってほしいとお願いする。しかし、泳げないから駄目だと、みんなは断ってしまう。島に行き、りすがいないまま遊んでも楽しくなかったみんなは、次の日、りすに昨日のことを謝り、りすをかめの背中に乗せて、みんなで島に向かう。

友達と仲良く遊ぶことのよさや、友達のことを考えて助け合うことの大切さについて考えることのできる教材である。仲間外れは、低学年における友達のトラブルとして見られる状況であり、こうした場面について考えることを通して、友達と仲良く助け合うことについて、考えを深めることができる。いじめに関する問題を自分自身のこととして、多面的・多角的に考えさせることにも活用できる。

◆◆◆教材の活用◆◆◆

遊びの誘いを断られ一人ぼっちになったりすの気持ちに寄り添って考えることで、自分のことだけではなく、友達の気持ちを考え、仲良くすることが望ましい友達関係を築く上で大切であるということに気付かせたい。

また、かめ、あひる、白鳥の気持ちを考えることで、異なる立場からも友達としての在り方に共感でき、自分もそう在りたいという意欲を高めたい。

自己中心性がまだ多く残る低学年の時期は、自分の思いが先に立ち、自分にとって都合のよいことを優先してしまうことがある。そのため、友達が嫌がることを何気なくしてしまったり、仲間外れにしまったりすることもある。本教材では、仲間はずれにする側とされる側の双方の気持ちを考えることができ、役割演技を取り入れることでより実感を伴いながら主体的に考えさせたい。

◆◆◆中心発問◆◆◆

かめさんの背中に乗って、みんなと島へ向かうりすさんはどんなことを言っているでしょう。

◆◆◆板書計画◆◆◆

写真

「もだちと 一緒に
だから、楽し
いっばい。
ともだちと
がんばるから、
えがお たくさん。」

「たのしいな。
りすさんが
よろこんで
くれて、
うれしいな。
たのしみだな。」



「ありがとう。
やさしいな。
うれしいな。
楽しいな。
何してあそぼう
かな。」

「およげないから、だめ。」
「いっしょにいきたくないな。」
「およげないから、かなしいな。」
「いじわるだな。」

「あそびたいな。」
「いっしょにいきたくないな。」

あそぶ そうだね

およげないりすさん

◆◆◆道徳的価値「友情」について◆◆◆

友達は家族以外で特に関わりを深くもつ存在であり、友達関係は共に学んだり遊んだりすることを通して、互いに影響し合っ

て構築される。また、世代が同じ者同士として、似たような体験や共通の興味や関心を有することから、互いの考え方などを交え、豊かに生きるための大切な存在として、互いの成長とともにその影響力を拡大させていく。

児童にとって、友達関係は最も重要な人間関係の一つであり、友達関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。よりよい友達関係を築くには、互いに認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情をはぐくんでいくことが大切である。

◆◆◆学習指導案（本時のねらいと展開）◆◆◆

本時のねらい

みんなと仲良く島へ向かうりすの気持ちを考えることを通して、友達と仲良くし、互いに助け合っていこうとする道徳的実践意欲を育てる。

本時の展開

	学習活動	発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	教材について関心をもつ。	今日はこんな動物が出てくるお話です。	イラストやペープサートで本時の教材への興味付けをする。
展開	- 教材を読む。 - いっしょにあそびたいりすの気持ちと仲間はずれにされた気持ちを考える。 - りすとかめの気持ちに共感する。	相談を聞いているとき、りすさんはどんな気持ちだったでしょう。 - いっしょに行きたいな。 - いっしょにあそびたいな。 「りすさんはおよげないからだめ。」と言われた時、りすさんはどんな気持ちだったでしょう。 - 独りぼっちでさびしいなあ。 - いっしょに行きたいなあ。 - 泳げないから悲しい。 かめさんの背中に乗って、みんなと島へ向かうりすさんはどんなことを言っているでしょう。 - ありがとう。みんな、うれしいよ。 - みんないっしょだと楽しいな。 - 島では何をして遊ぼうかな。 りすさんを背負っているかめさんは、どんな気持ちでしょう。 - たのしいな。 - りすさんが喜んでくれてうれしいな。 - みんなで遊べるから楽しみだな。	- 範読する。 - 仲良くあそびたいりすの気持ちを捉えさせる。 - 仲間はずれにされたりすの気持ちに共感させる。 - 役割演技を通して、誰とでも仲良く助け合うことのよさについて主体的に考えられるようにする。 - りすさんを背負っているかめさんの気持ちを考えることで、助け合うよさを感じさせる。 補助発問： 「かめさんは、どう考えて『ぼくのせなかのりなさいよ』と声をかけたのだろう。」 - 友達っていいな、これからも仲よく一緒にがんばっていききたいなという気持ちをもたせるようにする。
終末	本時の学習を振り返る。	友だちになかよくしてもらってうれしかったことには、どんなことがありますか。	- 友達と仲よくしたり、一緒にがんばったりしている写真を見せ、自分のこととして考えられるようにする。 「わたしたちの道徳」P76を活用し、本時の学習を振り返らせる。

評価の視点（例）

- 友達と仲良くし、互いに助け合うことのよさについて考える様子が見られる。